



West (第8号)

2023.8.31. 平井 利久

「心新たに2学期のスタートを」

【1・2年生へ】西高生になる(基礎・基本の確立) 勝負の2年生(共テレベルの完成)

夏休みは有意義な時間を過ごせたでしょうか。2学期がスタートしましたが、1、2年生共に、長い2学期は、教科学習はもちろん、進路を考える上でとても重要です。新課程の1年生は毎日の授業を大切に、基礎・基本を徹底させてください。また部活動等が、2年生を中心とした新しい体制に本格的に引き継がれる時でもあります。心新たに、新学期に漕ぎ出しましょう。9月を終えると、2年生は早くも高校3年間の後半へと突入します。また、夏休み学習時間全国平均160時間以上を目指した成果もあるでしょう。まず、受験生に足る心身の充実と、修学旅行後は、「3年0学期」へ移行していく気概を持ってください。

■ 3年間で受験に必要な学習時間は3500~4000時間！ 学習習慣の確立 + 進路目標の設定

進路希望の明確化の一方で、その実現のためには十分な受験学力の養成と定着が必須です。

7月模試の結果から、現時点では多くの生徒にとってその志望大学合格との間に大きな隔たりがあります。今後の学習を通じてその差を埋め合わせることができるかどうか、これまで以上に具体的な取り組みと自己に対する厳しさが求められています。自学自習をしっかりと行いましょう。

次の点に留意して主体的に学習する2学期としてください。

- ① 授業に集中し、分からない箇所は先生や友人に質問（教え合い・学び合い）し、解決する。
- ② 平日や休日に規則的な家庭学習を必ず確保する。（様々な情報雑誌で推奨されるのは、平日：学年+1時間、休日：学年+2時間が最低出発点ということです。）しかし、必ず、「何をいつまでに終わらせる」の意識、スパンの見通しを持つようにしましょう。
- ③ 科目選択を意識し、不得意科目の復習を始める。
- ④ 授業、課題、模試の事前学習、振り返りなど、ひとつひとつの学習機会を100%活用する。

- ★1年生11月進研模試 → 1年の重要模試 4月からの結果を学力で残し、継続する
 - ・7月の結果を上回ること。偏差値55以上、上位は65以上を目指し、目標を高く設定すること。
 - ・この模試の偏差値を2年1月までキープできるかが学力面での鍵となる。
 - ・自分の弱点を再度確認するように、振り返りを徹底する。

- ★2年生11月進研模試 → 2年での最重要模試 結果を出したい。
 - ・5教科になるだけでなく、英数国の学力の指標が試されるポイントとなる重要な模試。偏差値55以上、上位は65以上を目指し、目標を高く設定すること。
 - ・理社の範囲が短いので得点を獲得しやすい。今から対策を。→ 模試後の復習をしっかりとする。
 - ・3年10月記述模試で「-1」ポイントまでに抑えられるように。
 - ・7月模試の成績の結果を上回ること。目標を高く設定すること。振り返りを行い、夏休みに基礎力を補強し、11月模試において、3教科平均偏差値2ポイントアップを目指す。またGTZ（学習到達ゾーン）で、Aランク以上を目指す。

☆ ☆ ☆

【3年生へ】受験は団体戦(第一志望の貫徹) ベストを尽く切る大学受験に

約40日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。この間、全統共通マーク、夏期補習と忙しく、「終わってみればあっという間だった」と感じます。皆さんの学習計画は思ったように実行できましたか？

- ★3年9月駿台ベネ共テ模試 → 重要模試 6月マーク模試の偏差値をキープ+αしたい
 - ・夏休みの成果を出したい。前回模試結果を上回ること。目標を高く設定すること。

- ・ 上位旧帝大・早慶偏差値70以上、旧帝大偏差値65以上、難関大偏差値55以上を目指す。
- ・ 受験後半戦に向け、生徒の実力を見定める重要な模試となる。
- ・ 6月マークの偏差値をキープ+ α できることを最大目標とする。
- ・ 出題形式に慣れ、自己採点を元に、残り3ヶ月の具体的な勉強の方針を立てる。
- ・ 苦手科目の「分野別」復習を行う。 この模試から本番と同レベルで作られている。6月より5%得点率が上昇できるはず。
- ・ 自分の力を客観的に分析し、出願予定大学の視野を広げ始める時期でもある。

★ 3年10月駿台ベネ記述 → ドッキング判定を行う最重要「勝負模試」

- ・ いわゆる勝負模試。9月マーク終了後、この模試に向けて全力を尽くす。実際の共通テストとのドッキング判定に使う 出願検討最重要資料 となる。 全員前回結果を上回ること。目標設定高く。
- ・ 7月模試からの下げ幅を最小限にしたい。
- ・ 上位旧帝大・早慶偏差値70以上、旧帝大偏差値65以上、難関大偏差値55以上を目指す。 国立大の偏差値下限44位、平均54位か。GMARCH偏差値下限54位か。日東駒専下限43位か。

★★ 河合塾外部模試を積極受験すること★★ (浪人生も入り、データの質や問題の質もよい)

河合塾 上位旧帝大・早慶偏差値65以上、旧帝大偏差値60以上、難関大偏差値55以上を目指す。

↓ 3年7月、偏差値●●、E判定でも合格する！伸びしろを考えて3月まで頑張ればグンと伸びる。高い志を持ち諦めず貫けば行きたい大学へ合格できる！ 下の参考値以上なら上位は狙える！

3年7月ベネッセ記述模試 (R5、3月卒業生合格者の偏差値の参考値)

◎中堅国立大一般合格

◎GMARCH一般合格

◎GMARCH一般合格

■ 今後の入試スケジュール

総合型選抜や学校推薦型選抜で不合格になった場合、一般入試(共テ)までの期間が1~2ヶ月しかない。一般入試を見通した受験対策を怠りなくしておきたい。

- ・ 共通テスト受験場の・配慮申請 8月1日(火)~10月5日(木)
- 大学入学共通テスト出願 9月25日(月)~10月5日(木)
- 本試験 令和6年1月13日(土)・14日(日)
- 追試験 令和6年1月27日(土)・28日(日)
- ・ 総合型選抜出願 9月1日~ 合格発表 11月1日~
- ・ 学校推薦型出願 11月1日~ 合格発表 12月1日~

- ① 共通テスト「イヤホン不適合措置」の申請について
不安があれば担任に相談して下さい。
- ② 9月9日(土)駿台ベネッセ共テ模試の「大学コード表」を保管してください。今後の合否で記入する番号ですので、各自で冊子を保管し使用してください。
- ③ 令和6年度大学入学共通テスト「受験上の配慮申請」は早めに担任へ相談してください。

★模試の「大学コード表」を保管してください。今後の受験報告で記入する番号です。

■ 学習と出願に忙しい9月

9月は受験学力の養成の一方で、共通テスト試験の出願指導も始まる忙しい月です。 共通テスト試験は、高校を通じて出願しなければ受験できません。 一つ一つの手続きが公のものである以上、ズ切り厳守でノーマスが当たり前です。また志願者本人は皆さん自身ですから保護者任せはいけません。今後のSHR、LHRでは、今まで以上に重要な連絡が続きます。 遅刻は厳禁です。

■ 夏休みを後悔している？かもしれないあなたへ

◆出来たことに目を向けよう

計画を立てる時って大抵の場合は希望とやる気に満ちているので、あれもこれも実現可能のように思ってしまうものです。だから「立派過ぎた計画」が終わらなかったとしても、必要以上に落ち込む必要はありません。本気になればなるほど、やるべきことの多さと時間の流れの速さを実感するものです。しかし、皆さんの取り組んだ学習は着実に実力へと昇華していきます。これからも努力を続けて、ベストを尽くすこと。ブレてはいけない。諦め悪くなれ！

◆やり残したことは、これから完成させる

また、自分の理想と夏休み後の現実（現在の実力）を比べてゲンナリしてしまうこともやむを得ません。何度も言われている通り、実は努力が結果に表れる＝実力になるには時間がかかります。まずは冷静に自分を見つめて、計画通り行かなかった部分、つまり、まだ終了していない部分を出来るだけ早く終わらせることから始めましょう。今後は同じ轍を踏まぬよう自分を戒めること。

これからは、焦りも出始める頃でしょう。誰にとってもプレッシャーが強まっていく、これからが本当の受験勉強です。なかなか実力が伸びない、覚えられない、時間が無い、もうだめ…など、悪循環にはまっている人はいないでしょうか。絶対にやってはいけないことは、『過去を振り返って後悔ばかりすること』『周囲の人と自分を比べてうらやむこと』です。過ぎた時間は取り戻すことはできないし、考えても仕方がないことです。最終の合格発表の日まで、この受験勉強に終わりはない。どこまで到達しても不安は残るし、どんな人でも「やり残しがある…」という状態で本番を迎えるのです。後向きの思考はやめて、前向きに進みましょう。しかし、準備できる期間は決まっています。いたずらに落ち込んで学習のペースを乱すより、プラス思考で努力を積み上げていきましょう。皆さんの周りには、いつも切磋琢磨し合う仲間がいることも忘れずに。

■ 学習配分にメリハリを！

一般入試の可否は「共通テスト＋個別」の総合点ですから、ここで志望大学の配点を再確認して攻略の道筋を考える必要があります。最優先事項は、それぞれの志望校と現時点での学力で違います。たとえば右の表にある信大工学部や繊維学部の配点を見れば、理数科目こそが可否を決することは明らかでしょう。理工系ならばまず数学と理科が最優先、次いで

		英語	数学	国語	理科	社会	調査書	合計
信州大学 工学部 【前期】	共通テ	200	150	100	150	50		650
	個別		250		250		40	540
	合計	200	400	100	400	50	40	1190
	配点比	17%	34%	8%	34%	4%	3%	100%
信州大学 経法学部 【前期】	共通テ	200	200	200	100	200		900
	個別	200※	200※	200※			50	250
	合計	400※	400※	400※	100	200	50	1150
	配点比	35%また は17%	35%また は17%	35%また は17%	9%	17%	4%	100%

※3教科から1教科選択

英語です。一方、教育や医療系は共通テスト配点が比較的高く、教科バランス重視の傾向があります。夏休み後の学習はあれもこれもと手を広げたくりますが、優先事項は志望系統・志望大学、現在の学力で違います。重点科目・苦手科目・得意科目なども考慮して計画しましょう！

■ これからの学習は「受験実戦力の養成」

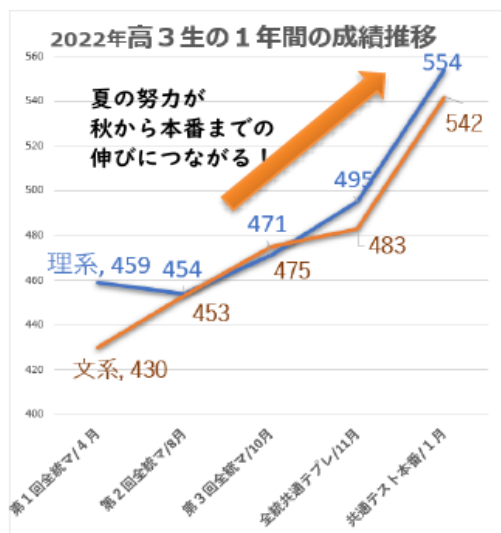
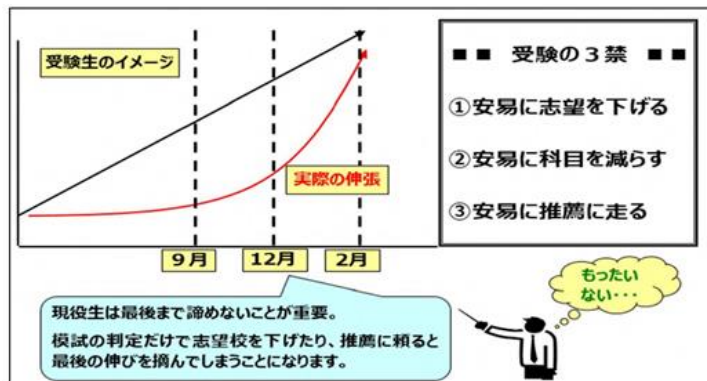
夏休みの目標は、受験基礎力の完成でした。これから9月～11月までの約3ヶ月は記述対策、実戦力を養う時期です。国公立、私立の別なく、個別試験科目を中心に学習を進めるていきます。また2学期は、夏休みに理社各1科目をできる限り完成させた延長上で、理社の学習を本格化させる時期です。マーク模試が伸び悩む人は、まずは理社を含めた共通テスト対策（標準問題）から。課題や模試の解き直しと解説の熟読など、学び直しが有効。新しいものに手を出すより、繰り返すことが大切なのです。また、朝学を最大限生かし、通学途中等の隙間時間を大いに活用しましょう。

■ 不安の裏側は

進路に関わる会話の中で、不安を口にする生徒もいます。たとえば「間に合うか不安になってきました」という生徒に対しては、『間に合わせるしかないよね』と答えています。間に合わないことを理由に希望を変えるのは浅はかです。まず目の前の勉強に専念すべきです。また「受験科目を減らそうと思いますが…」と聞けば、『科目を減らした分だけ、受験できる大学は減るし、ボーダーは上がるよ』と答えています。ランキング表を見れば、同じ学部系統でも科目数が少ない大学の偏差値が高いことは一目瞭然です。同じ大学の受験でも科目が減るごとに倍率と偏差値は上昇していきます。4月の進路講話でもお話したように、科目を絞る分だけ合格可能性は低下します。

■ 秋の虫は弱気の虫！？

◆ 受験科目を減らす前に



5(6)教科7科目型で共通テストを出願した生徒が多い学年は、国公立大の進学者数はもちろん、現役進学率も高い(浪人が少ない)傾向であることが明らかです。それでも時々「受験科目を減らしたい」という相談を受けることがあります。本格的な秋が見えてきて、受験が現実的になってきたからなのでしょうが、共通して「少ない教科だけに集中すれば合格が近づく」「科目を絞れば受験勉強が楽になる」かのような思い込みで囚われているようにも感じます。「いいえ、私の志望校はこの科目だけでいいんです！」と力説されても、いままでより難しい大学や入試区分だけに決め込み、自分から可能性を狭めてしまう『負のスパイラル(難化のスパイラル)』に陥っているとしか見えません。あらためて、その理由を整理しておきます。

◆ 私立専願、3教科型・2教科型への転向は難易度が格段に高くなる

早くから私立専願に決めている人はいいのですが、国公立文系志望の生徒にこの傾向が見え始めます。首都圏の主な私立大学は、ここ数年の難化傾向は多少落ち着きつつありますが、首都圏の受験生は“彼らにとっての地元の大学”ですから、ずっと前から科目を絞って高得点を狙い続けることに専念しています。それに対して、国公立型の学習を継続した方が、得意科目は一層伸ばし、不得意科目は平均まで伸ばしつつ総合点で後期まで臨めば、最終的な合格可能性は広がります。これは結果として私立大学の受験にも生きてきます。例えば、東洋大学ですが、昨年度の入試において4教科以上の多教科型受験者数の倍率は、2～3教科型を下回ると同時に合格率が高くなっています。さらに現在、そして今後の傾向として、文系・理系の枠組みを超えた文理融合型の学部(データや統計)や受験方式(4教科以上)が増加していくことが見込まれています。

また、「得意科目を生かす」という言葉の真意をしっかりと認識しましょう。あなたの得意科目とは、本当の得意でしょうか？絶対的な高得点科目といえるのでしょうか？全統で偏差値60超(進研なら65超)なのですか？全国平均の学力を“得意”とは呼びません。まして、私大2教科型(同じ大学同じ学部の入試の内、最高偏差値=最難関)への絞り込みは大きな冒険と言えます。

◆ 7科目型から6科目型への転向、アラカルトの価値

理社1科目ずつの6科目型は公立大学を中心に散見されますが、結果として7科目型の大学よりも難しくなっています。これから集中して学習を深めると、これまで得意だと思っていた教科が並で、苦手だった科目が得意科目に伸びることは十分にありえます。また、アラカルト方式(該当する受験科目の内、高得点科目を採用)の場合、絞り込みは平均点の上下の影響を受けやすくなるため危険です。科目の絞り込みが、出願可能校を大幅に減らすこと、難易度を上げること、さらには大きなリスクを背負うことになるという現実を直視してください。

◆ 努力した者が全て報われるとは限らない、しかし！成功した者は皆すべからく努力している！！

たとえばある国立大学の学生募集要項には、『各教科に対する得手、不得手を超えて、各教科にわたる広い教養と学力を身につけていることが求められ、高等学校等において、基礎的で確かな学力と専門領域を深めるための学力とを身につけておくことを望みます』と明記しています。実際、全国のほとんどの教員養成系学部は7科目型であり、配点比も変えない900点満点です。たとえ苦しくても、出遅れた理科・社会に追い立てられながら、英数国の力も少しでも伸ばそうと努力し続ける姿が、西高生には似合います。そして、これこそが合格への近道なのです。